第204回　中小企業の景気動向調査

調査時点	2025年5月下旬～6月上旬
調査対象期間	2025年4月～5月実績・6月予想値　2025年7月～9月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先1,600社（大阪府内ならびに尼崎市）
回答企業数	623社
回答率	38.9%
調査方法	調査票郵送による回答、インターネットによる回答
分析方法	DI（Diffusion Index）を中心に分析

DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」（上昇）と回答した企業割合から「減少」（低下）と答えた企業割合を差し引いた値

〔例：売上DIの場合〕

売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業	「変わらず」	売上が「減少」した企業
45%	20%	35%

45%　－　35%　＝10　←――　売上DI

アンケート回答企業の内訳

業種別／従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計構成比
1～ 4	31	27	28	7	25	17	0	32	167	26.8%	26.8%
5～10	57	23	9	4	37	17	8	24	179	28.7%	55.5%
11～20	53	12	3	2	23	10	4	2	109	17.5%	73.0%
21～30	21	8	1	2	9	8	7	2	58	9.3%	82.3%
31～50	15	7	2	2	1	7	4	3	41	6.6%	88.9%
51～100	13	3	4	4	2	13	3	2	44	7.1%	96.0%
101～	8	3	2	1	3	3	2	0	22	3.5%	99.5%
従業員数不明	1	0	0	0	1	1	0	0	3	0.5%	100.0%
計	199	83	49	22	101	76	28	65	623	100.0%	
構成比	31.9%	13.3%	7.9%	3.5%	16.2%	12.2%	4.5%	10.4%	100.0%		

総　合　　止まらぬ物価高　迫るトランプ関税

売上ＤＩは－5.2（前回比△2.2ポイント）、収益ＤＩは－11.1（前回比△1.7ポイント）となり、前回調査時の4-6月期の見通しと比べ、売上ＤＩは6.4ポイント、収益ＤＩは3.8ポイントそれぞれ下振れしました。

売上ＤＩは、製造業が－12.1（前回比△0.8ポイント）、卸売業が－24.1（前回比△22.9ポイント）、小売業が－8.2（前回比△2.0ポイント）、飲食業が4.6（前回比△0.4ポイント）となり、8業種中4業種が前回から下落し、特に販売数量が下落しています。物価高は依然終息の気配は無い上に、トランプ関税の行方も影を落とし、個人消費マインドの低下が懸念されます。

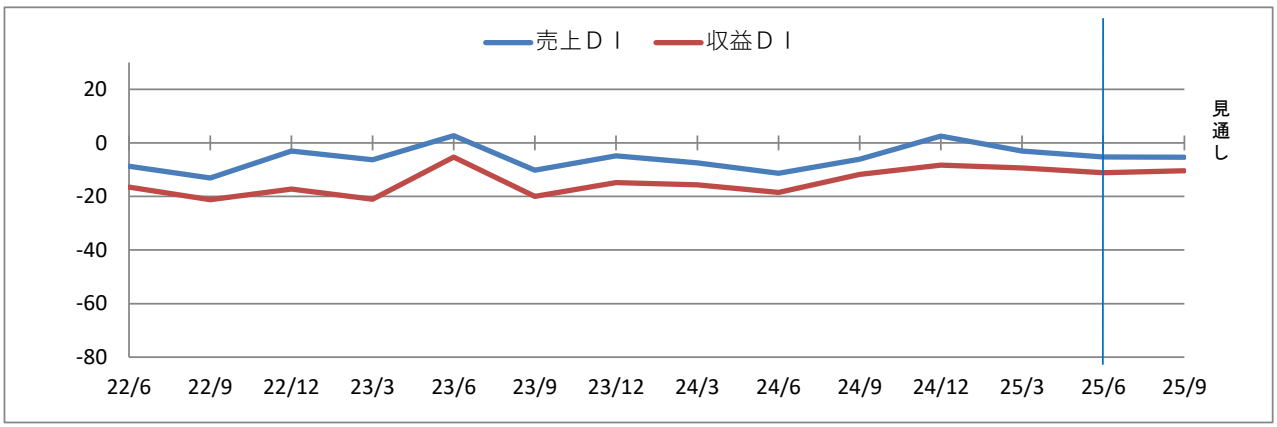
販売価格ＤＩは、22.0（前回比＋3.6ポイント）、販売数量ＤＩは－14.5（前回比△7.3ポイント）となりました。

2025年7-9月期は、売上ＤＩが0.2ポイント下落、収益ＤＩが0.7ポイント上昇、販売価格ＤＩが2.1ポイント下落、販売数量ＤＩが2.2ポイント上昇すると予測し、景気回復への足取りは重い状況が続いています。

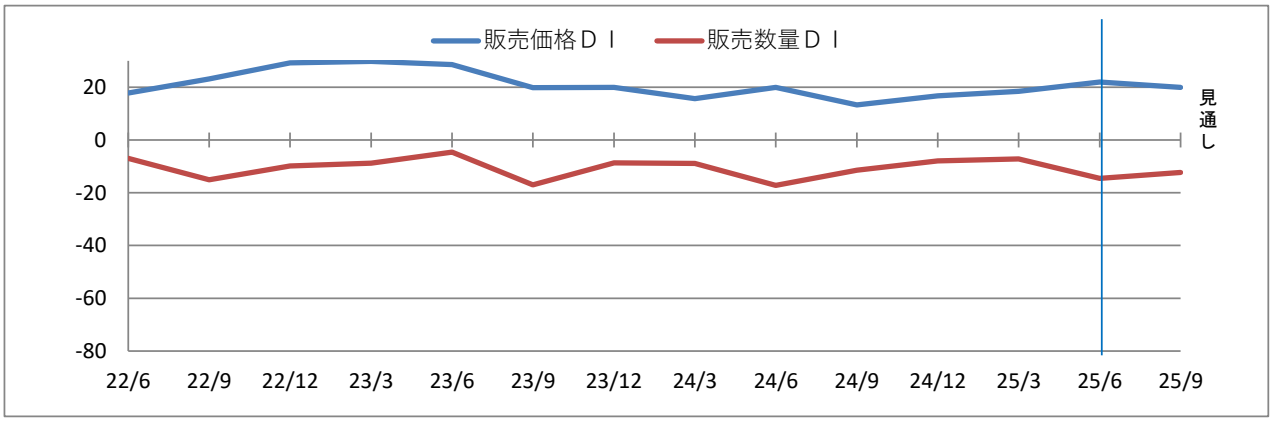
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が69.0％（前回比△2.3ポイント）、「売上停滞減少」が51.4％（前回比＋7.2ポイント）「一般経費増大」が46.0％（前回比△3.0ポイント）、「人手不足」が38.7％（前回比△2.6ポイント）となりました。特に、サービス業や運輸業で人手不足感は依然として高くなっています。

設備投資は「実施中」14.5％（前回比△3.8ポイント）、「予定あり」13.1％（前回比＋0.1ポイント）の合計27.6％となり、全ての業種で前回調査から設備投資意欲は後退しています。

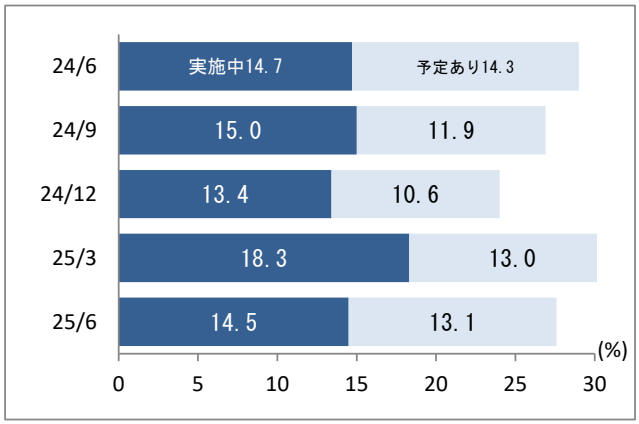
売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　　n= 623



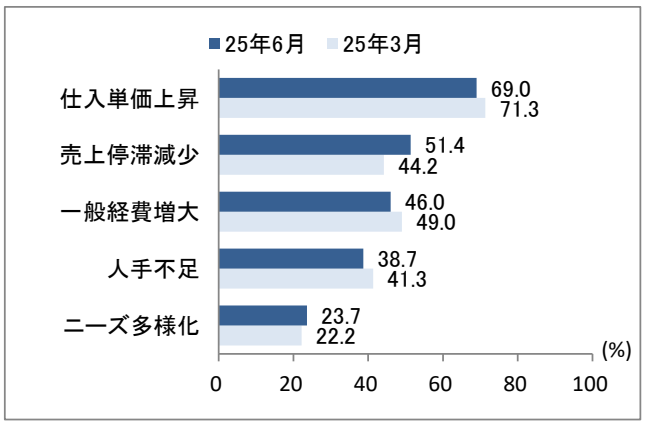
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



経営上の問題点



製造業　企業物価高止まり　力強さ欠く売上

売上ＤＩは－12.1（前回比△0.8ポイント）、収益ＤＩは－14.2（前回比＋4.9ポイント）となり、前回調査時の4-6月期の見通しと比べ、売上ＤＩは3.7ポイント下振れし、収益ＤＩは1.5ポイント上振れしました。

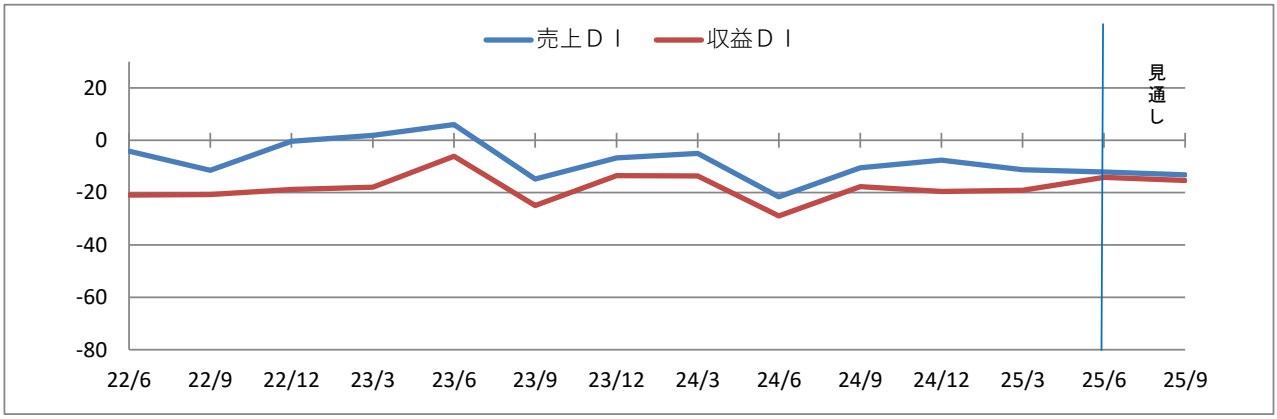
2025年7-9月期は、売上ＤＩが1.1ポイント、収益ＤＩが1.1ポイントそれぞれ下落し、販売価格ＤＩが0.9ポイント、販売数量ＤＩが0.6ポイントそれぞれ下落すると見込んでいます。

企業からは、「賃金を上げたいが、仕事量が減る上に金型単価の引上げが難しく、今後に危機感を感じる」、「賃上げ機運にどこまでついていけるか不安だ」などの声が聞かれ、中小製造業では大企業製造業とは対照的に苦戦しています。鉄鋼・金属関連の企業物価は依然高止まりするなか、「トランプ関税の影響がどの程度でるのか心配している」との声も聞かれ、厳しい環境下におかれています。

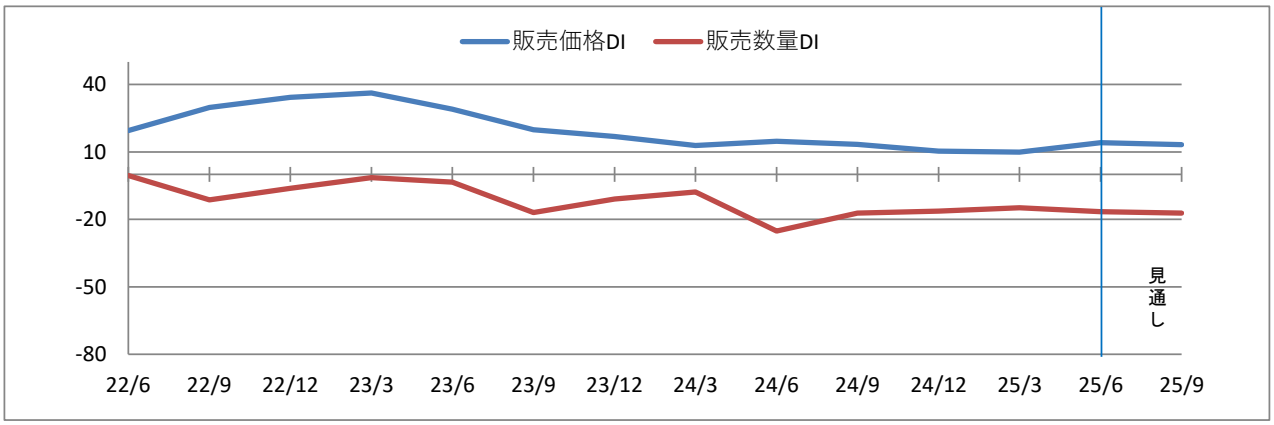
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が70.4％（前回比△9.2ポイント）、「売上停滞減少」が68.4％（前回比＋11.7ポイント）、「一般経費増大」が51.0％（前回比＋1.2ポイント）、「人手不足」が29.6％（前回比△5.7ポイント）となりました。売上確保に向けた課題が急伸する中、トランプ関税による影響もあって先行きに不安を抱えています。

設備投資は「実施中」が15.3％（前回比△2.0ポイント）、「予定あり」が15.8％（前回比＋1.4ポイント）で合計31.1％となり、前回調査から設備投資意欲は横這いで推移しています。

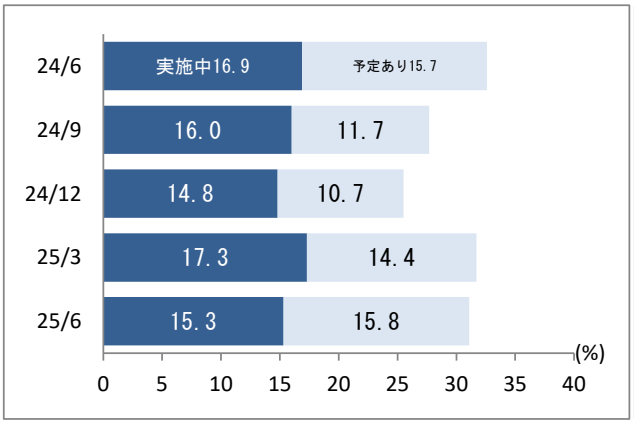
売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　n= 199



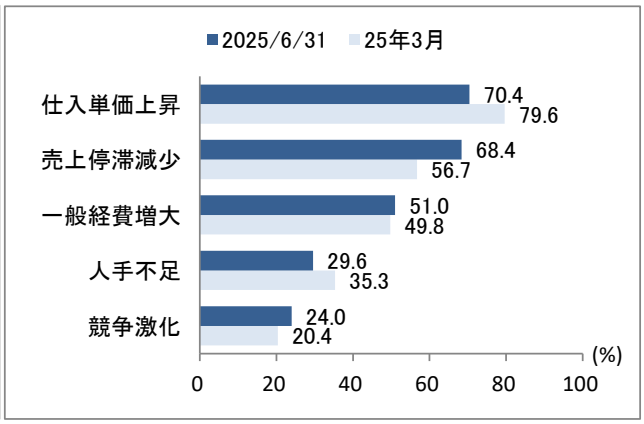
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



経営上の問題点



卸売業　消費マインド低下　販売数量急落

売上ＤＩは－24.1（前回比△22.9ポイント）、収益ＤＩは－15.8（前回比△8.8ポイント）となり、前回調査時の4-6月期の見通しと比べ、売上ＤＩは17.1ポイント、収益ＤＩは1.9ポイントそれぞれ下振れしています。

企業からは、「各メーカーの生産中止や生産量の減少で、市場在庫量の減少や偏りが生じ、商品の仕入が困難となっている」、「市場競争も激しく思うように価格転嫁が進まない」との声が聞かれました。

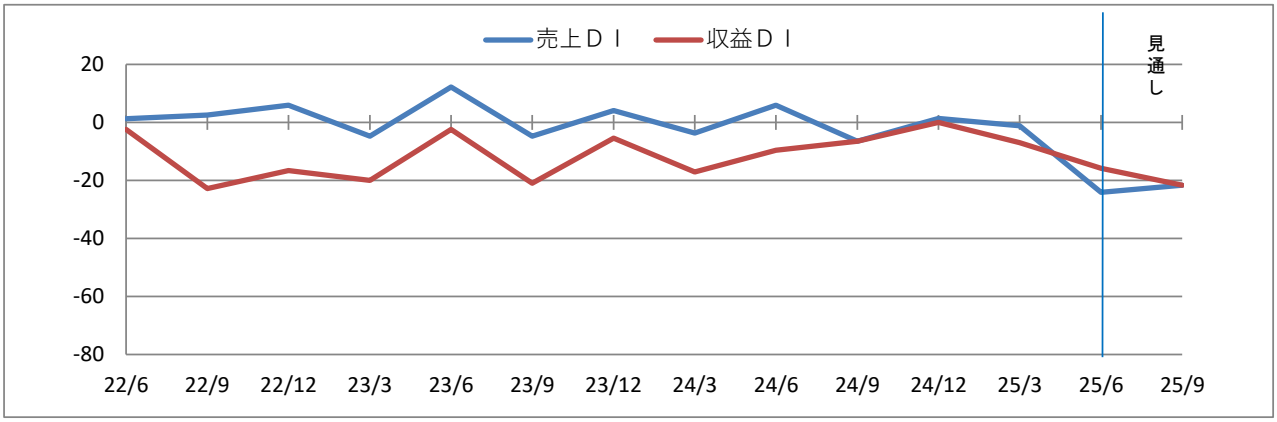
物価高は依然終息の気配はない上にトランプ関税の行方は見えず、個人消費マインドは低下気味で販売数量が大きく落ち込んでいます。

2025年7-9月期は、売上ＤＩが2.5ポイント上昇し、収益ＤＩが5.8ポイント下落し、販売価格ＤＩが10.6ポイント下落し、販売数量ＤＩが±0ポイントと見込んでいます。

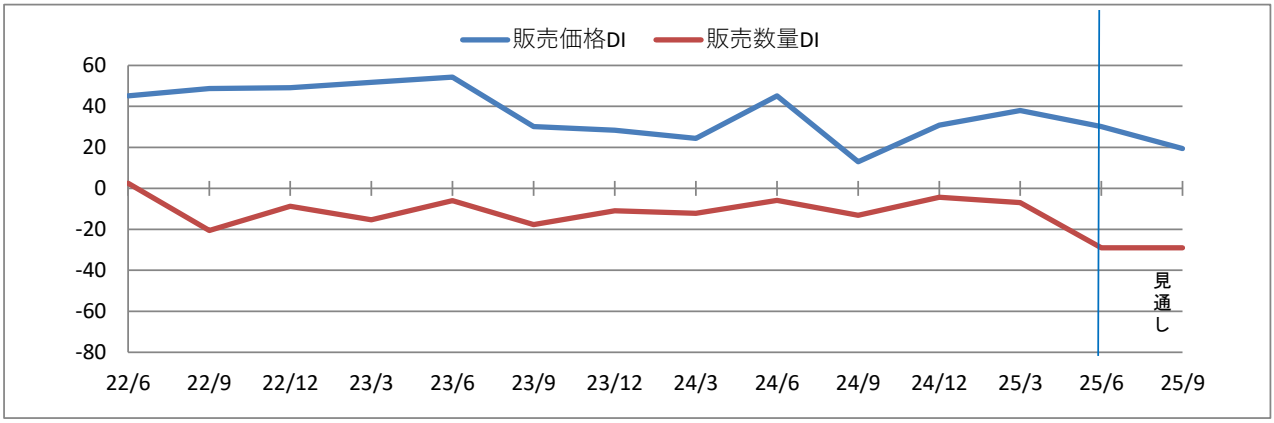
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が74.1％（前回比＋3.2ポイント）、「売上停滞減少」が64.2％（前回比＋6.1ポイント）、「一般経費増大」が49.4％（前回比＋9.9ポイント）となり、売上の確保と経費の増加に課題を抱えています。

設備投資は「実施中」が13.8％（前回比＋2.2ポイント）、「予定あり」が12.5％（前回比△3.8ポイント）で合計26.3％となり、設備投資意欲はほぼ横這いで推移しています。

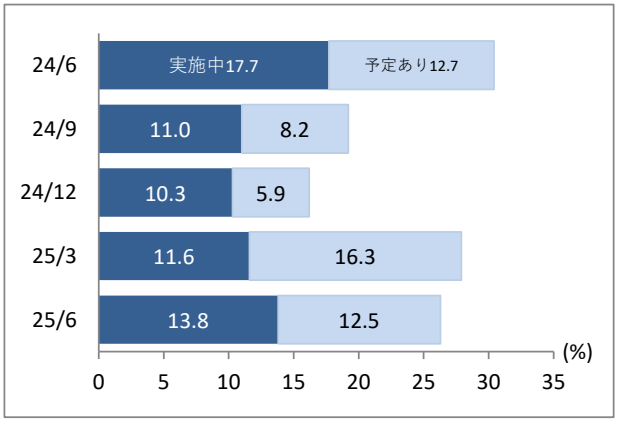
売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　n= 83



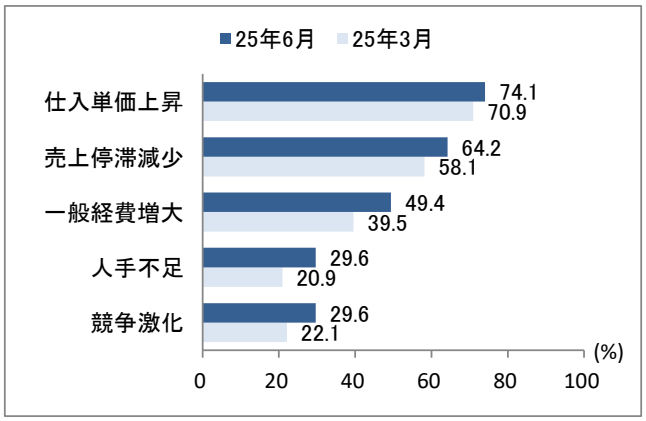
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



経営上の問題点



小売業　物価高直撃　節約志向　固い財布の紐

売上ＤＩは－8.2（前回比△2.0ポイント）、収益ＤＩは－16.4（前回比＋0.3ポイント）となり、前回調査時の4-6月期の見通しと比べ、売上ＤＩは8.2ポイント下振れし、収益ＤＩは＋0.2ポイント上振れしました。

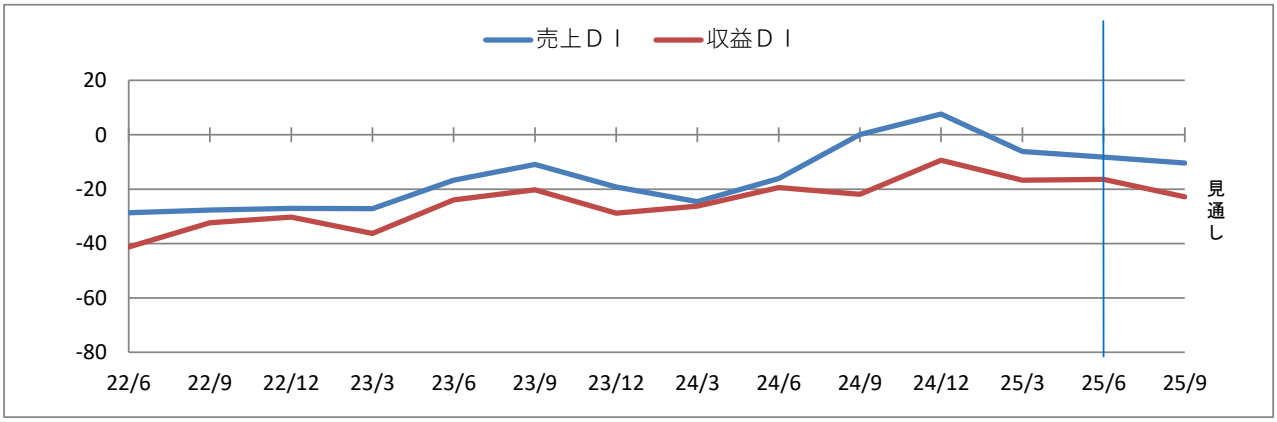
販売価格ＤＩは28.6（前回比＋13.7ポイント）、販売数量ＤＩは－22.5（前回比△20.4ポイント）となり、販売数量が大きく落ち込みました。景気の先行きに対する沈滞ムードは高まり、顧客の財布の紐は固くなってきました。

2025年7-9月期は、売上ＤＩが2.2ポイント、収益ＤＩが6.4ポイントそれぞれ下落し、販売価格ＤＩは4.1ポイント下落し、販売数量ＤＩは±0.0ポイントと予想しています。

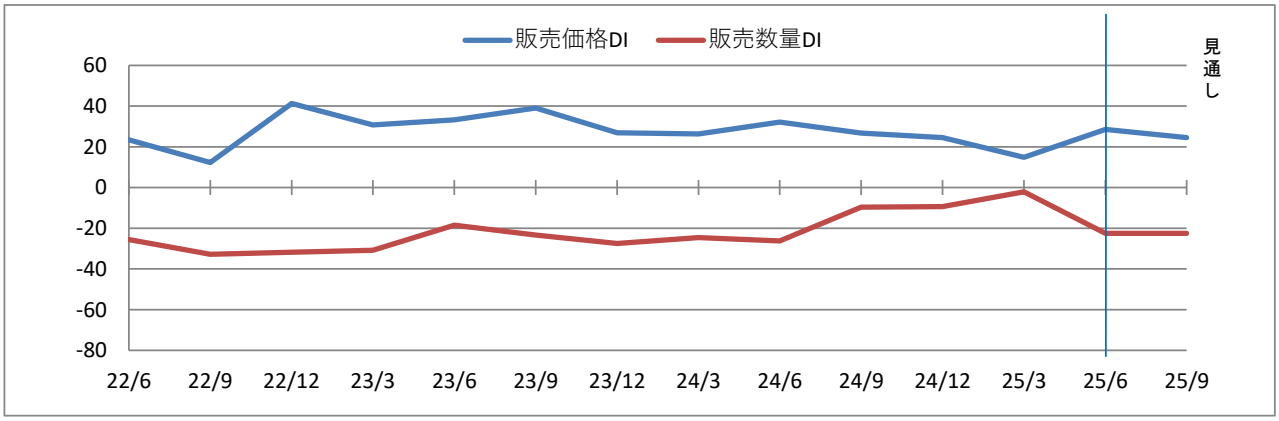
経営上の問題点は、「仕入単価の上昇」が66.7%（前回比△8.3ポイント）、「売上停滞減少」が52.1%（前回比＋14.6ポイント）「一般経費増大」が39.6%（△6.2ポイント）、「人手不足」が33.3%（前回比△4.2ポイント）となり、売上停滞減少が急伸しています。

設備投資は「実施中」16.7%（前回比＋1.5ポイント）、「予定あり」が2.1%（前回比△6.6ポイント）で合計18.8%となり、設備投資意欲は前回から大きく後退しました。

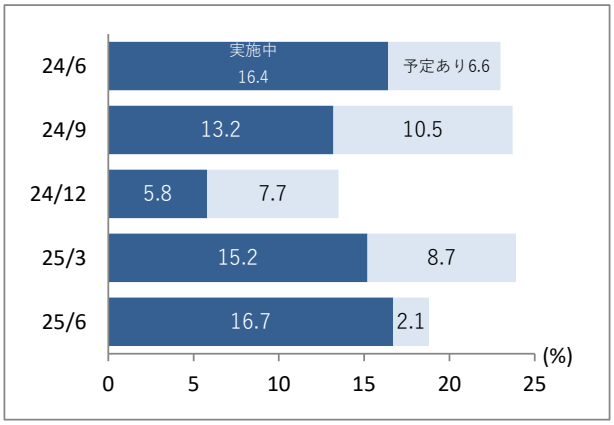
売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　n= 49



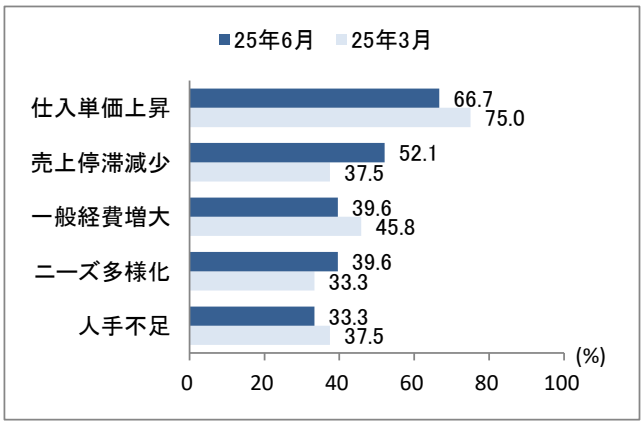
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



経営上の問題点



飲食業　コメ･野菜高騰　追い打ちかける調味料高

売上ＤＩは4.6（前回比△0.4ポイント）、収益ＤＩは31.9（前回比△36.9ポイント）と、前回調査時の4-6月期の見通しと比べ、売上ＤＩは20.4ポイント、収益ＤＩは41.9ポイントそれぞれ下振れしています。

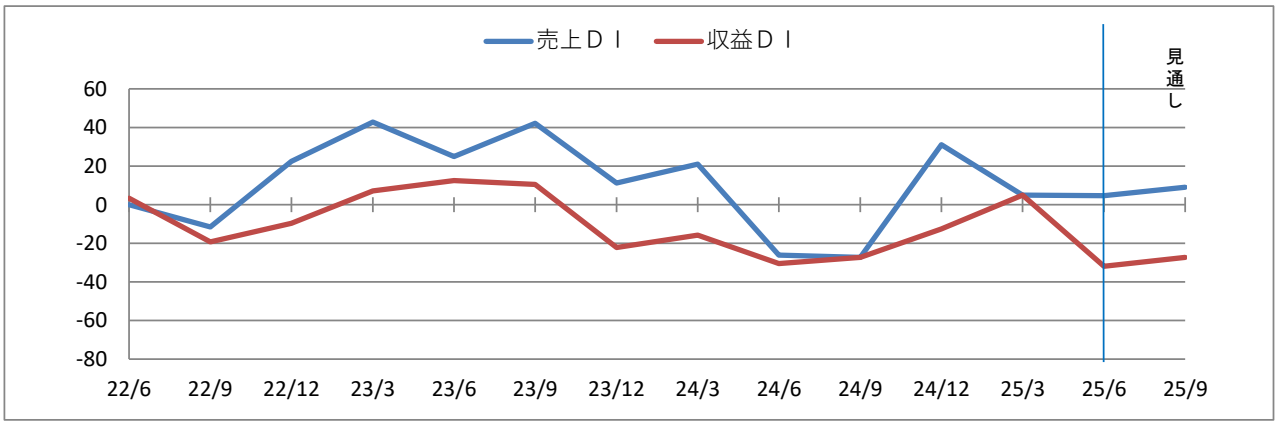
販売価格ＤＩは33.3（前回比＋13.3ポイント）、販売数量ＤＩは－4.8（前回比＋0.2ポイント）となりました。インバウンド需要に支えられて売上を確保する企業もありますが、物価高や個人消費マインドの低下で売上の確保に苦戦する企業もあり、企業間でバラツキが見られます。

2025年7-9月期は、売上ＤＩが4.5ポイント、収益ＤＩは4.6ポイントそれぞれ上昇し、販売価格ＤＩは9.5ポイント、販売数量ＤＩは4.7ポイントそれぞれ下落すると予想しています。調味料や香辛料を中心に値上げの動きがあり、止まらない物価高の行方が暗い影を落としています。企業からは、「人材の確保が難しい。物価高騰の影響で個人消費が減少することに不安を感じる」「飲食業は美味しい料理を提供するだけでなく、人をもてなす産業であり、優秀な人材こそが一番の経営課題である」という声が聞かれました。

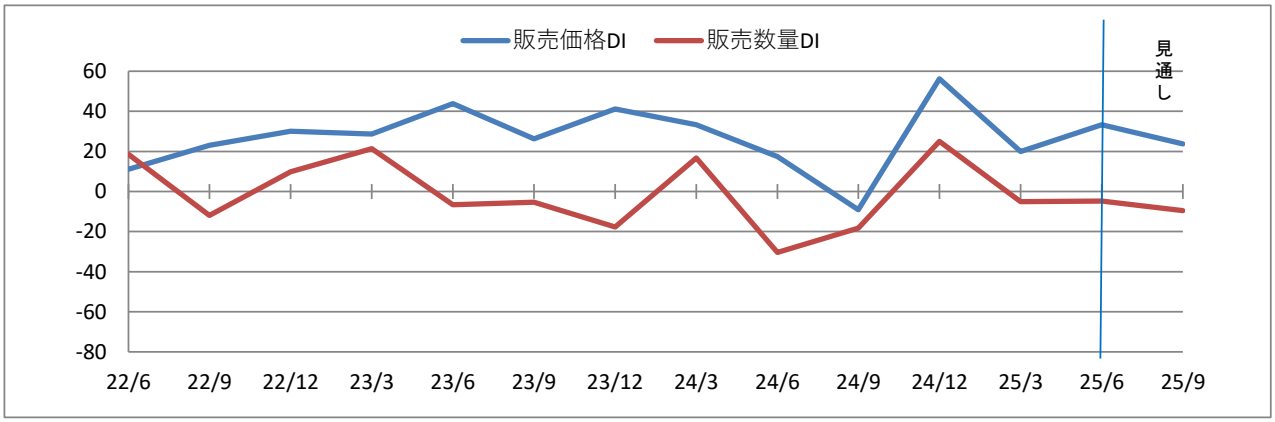
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が95.5％（前回比＋0.5ポイント）、「一般経費増大」が68.2％（前回比＋3.2ポイント）、「ニーズ多様化」が54.5％（前回比＋29.5ポイント、「人手不足」が50.0％（前回比△15.0ポイント）となりました。米や野菜の高騰だけでなく、「ニーズ多様化」が急伸し、数多くの経営課題への対応を迫られています。

設備投資は「実施中」が9.1％（前回比△0.9ポイント）、「予定あり」が18.2％（前回比△11.8ポイント）で合計27.3％となり、個人消費の冷え込みを見込んで設備投資意欲は後退しました。

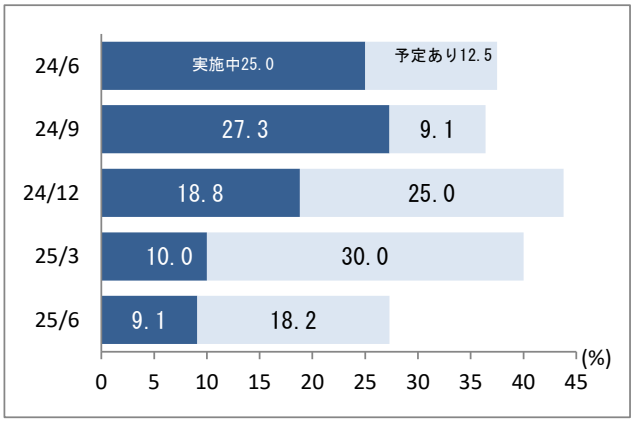
売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　n= 22



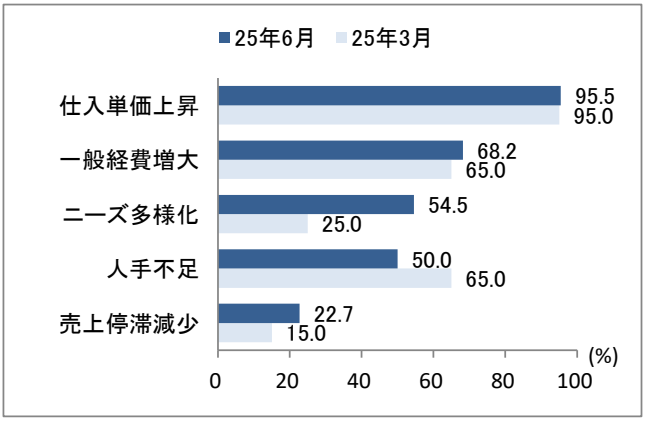
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



経営上の問題点



建設業　終わる万博関連受注　迷う物件購入

売上ＤＩは0.0（前回比＋1.7ポイント）、収益ＤＩは－3.0（前回比＋4.8ポイント）となり、前回調査時の4-6月期の見通しと比べ、売上ＤＩが0.8ポイント下振れし、収益ＤＩが4.7ポイント上振れしています。

販売価格ＤＩは18.2（前回比△2.6ポイント）、販売数量ＤＩは－17.4（前回比△12.5ポイント）となり、販売数量が大きく落ち込みました。企業からは「材料費の高騰が続いており価格転嫁が追い付かない、どうしても大手の様には行かない」「受注件数を多く見受けられるが、万博が開催し市場の発注が落ち着いている。万博に入っていた業者は暇になってきており、価格競争が起こっている」という声が聞かれました。長期化する仕入価格の高騰で価格転嫁も厳しく、万博効果も薄れてきました。

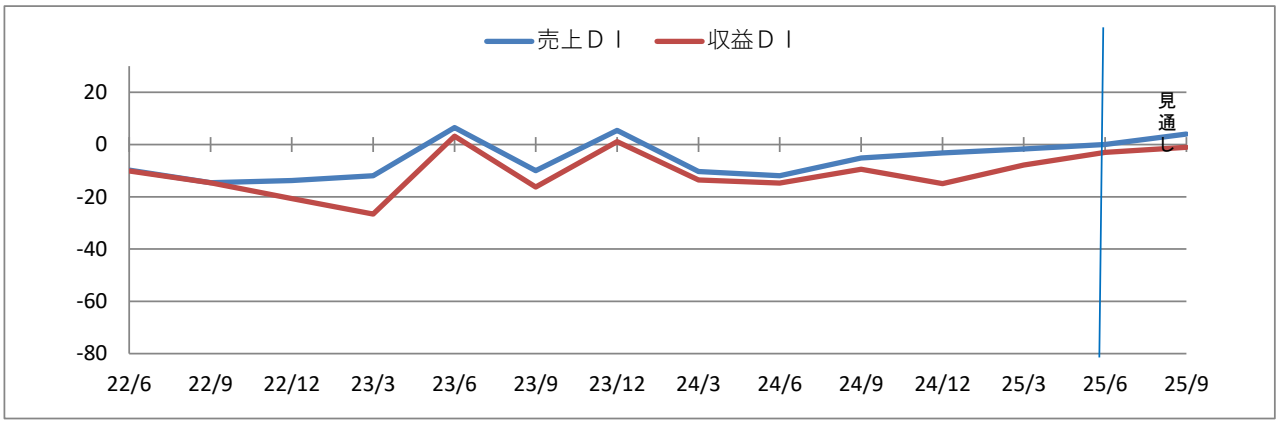
金利の先高観と依然続く物価高による可処分所得の減少により、物件購入を迷う顧客もあり、先行きは不透明感が漂っています。

2025年7-9月期は、売上ＤＩが4.0ポイント、収益ＤＩが2.0ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

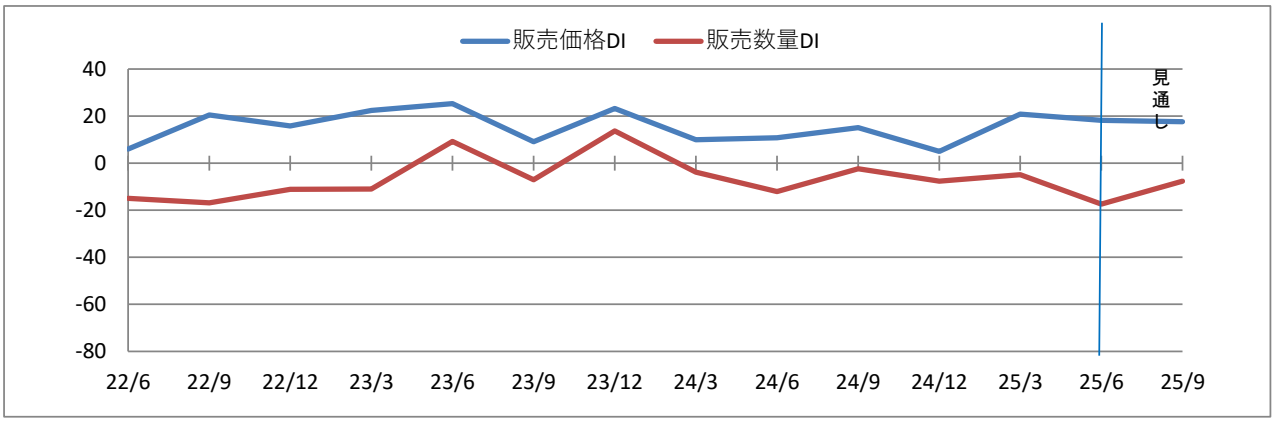
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が77.2％（前回比＋8.0ポイント）、「人手不足」が51.5％（前回比△7.5ポイント）となり、問題点は長期化しています。

設備投資は「実施中」が12.9％（前回比△6.9ポイント）、「予定あり」が5.9％（前回比△2.7ポイント）で合計18.8％となり、前回調査から設備投資意欲は少し後退しました。

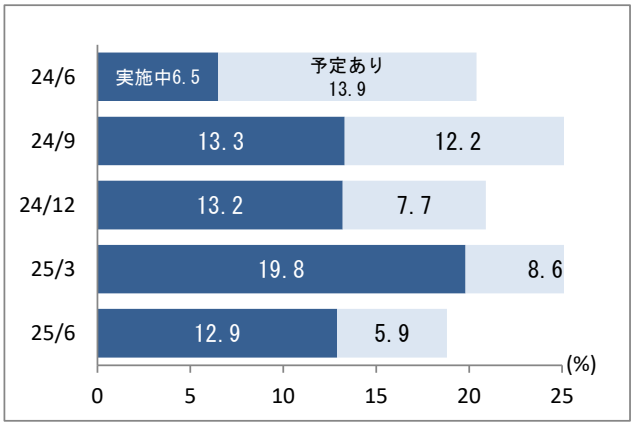
n= 101



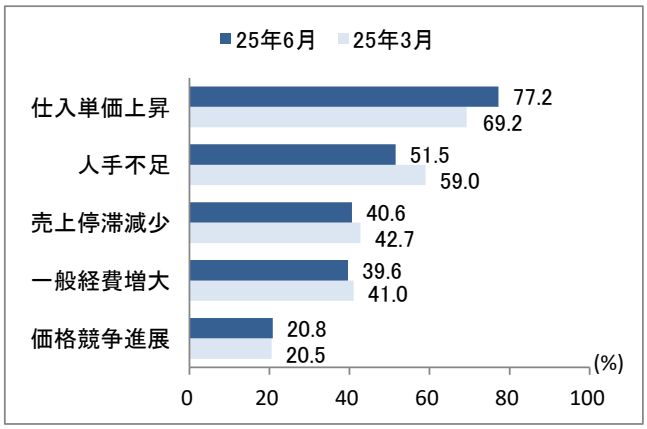
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



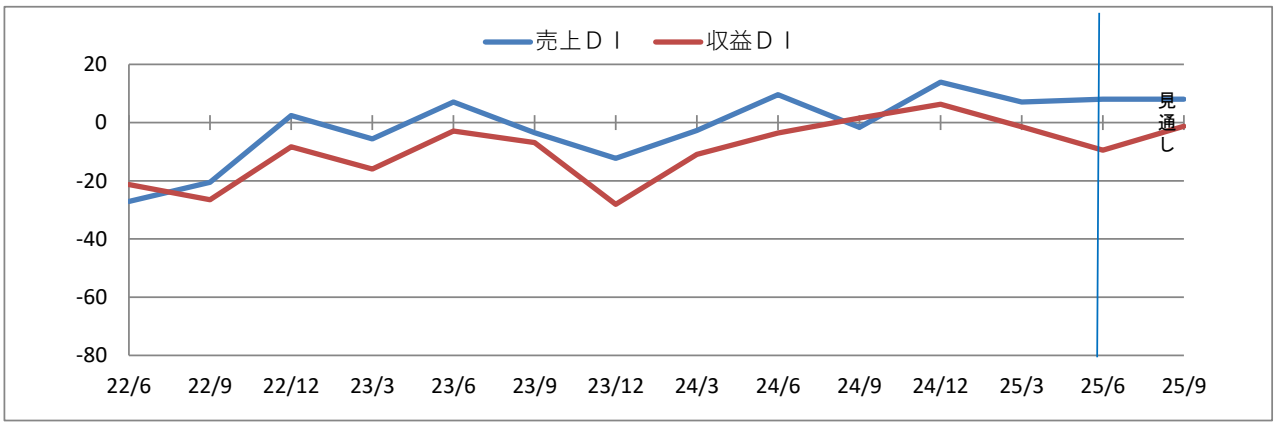
経営上の問題点



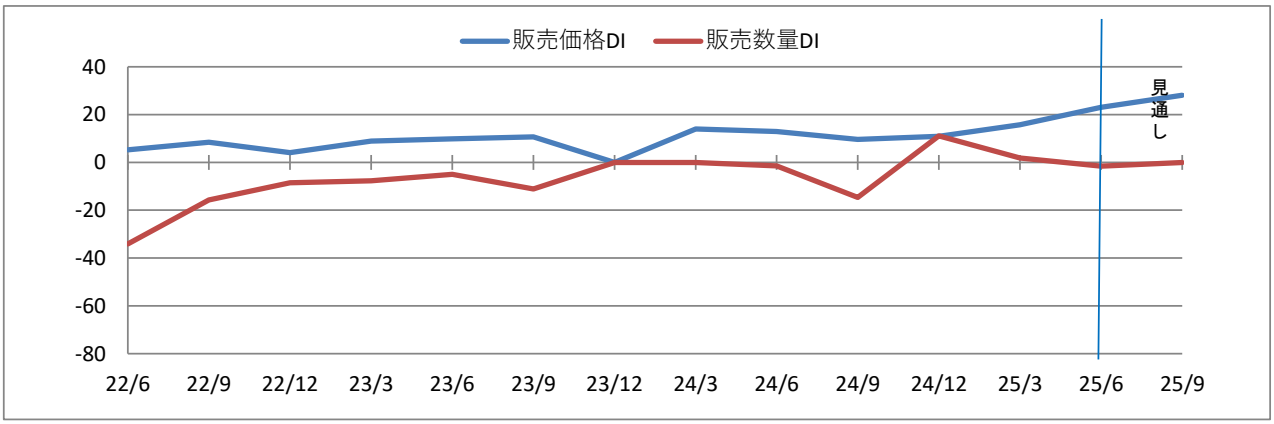
サービス業　人材争奪戦　厳しい経営環境

売上ＤＩは8.0（前回比＋0.9ポイント）、収益ＤＩは－9.5（前回比△8.1ポイント）となり、前回調査時の4-6月期の見通しを売上ＤＩは7.7ポイント、収益ＤＩは11.0ポイントそれぞれ下振れしています。
販売価格ＤＩは23.1（前回比＋7.4ポイント）、販売数量ＤＩは－1.6（前回比△3.4ポイント）となり、販売数量の減少を販売価格が補って売上を確保しています。
インバウンド需要に支えられ宿泊業は好調が続いています。しかし、企業からは、「人手不足が深刻で業者間で取り合いになっています」「現社員の高齢化。求人募集をかけても応募者が来ない」という人材不足に向けた声や、「とにかく減税対策を早急に実現してほしい。中小零細企業に向けた優遇対策をお願いしたい」との声も聞かれるなど、厳しさを増す経営環境が伝わってきました。
2025年7-9月期は、売上ＤＩが±0.0ポイント、収益ＤＩは8.2ポイント上昇し、販売価格ＤＩが5.0ポイント、販売数量ＤＩが1.6ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。
経営上の問題点は、「人手不足」が64.0%（前回比△5.2ポイント）「仕入単価上昇」が45.3%（前回比＋6.8ポイント）「一般経費増大」が45.3%（前回比△19.3ポイント）となりました。
設備投資は「実施中」が16.0%（前回比△6.9ポイント）、「予定あり」が13.3%（前回比＋0.4ポイント）で合計29.3%となり、設備投資意欲は前回調査から後退しています。。

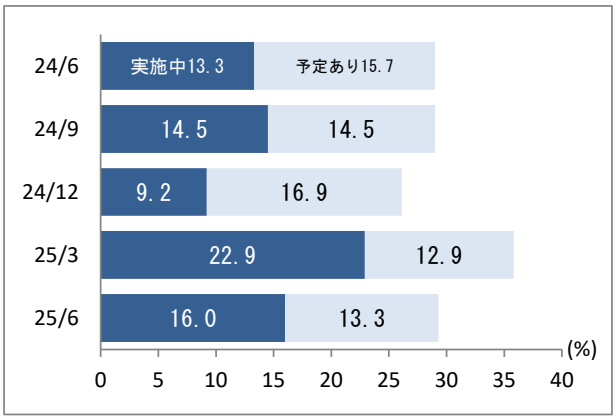
売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　n= 76



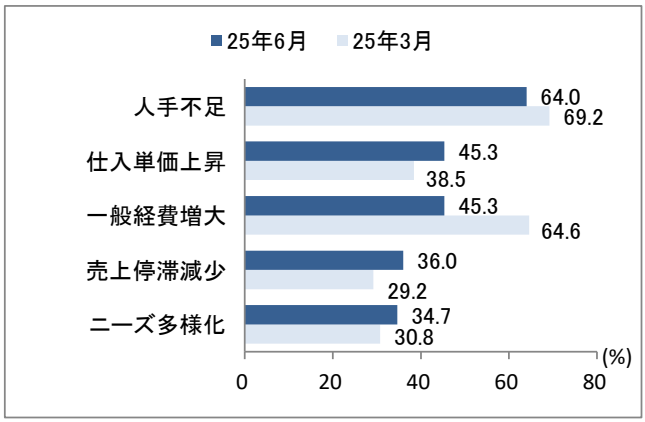
販売価格ＤＩ・販売数量ＤＩの推移



設備投資動向



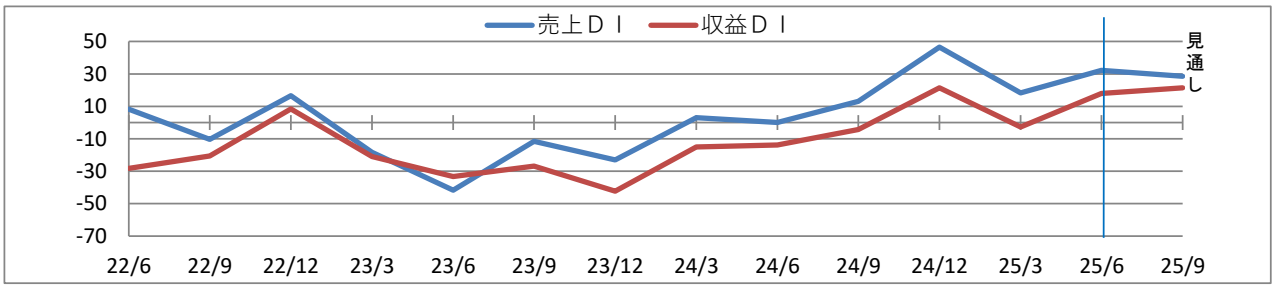
経営上の問題点



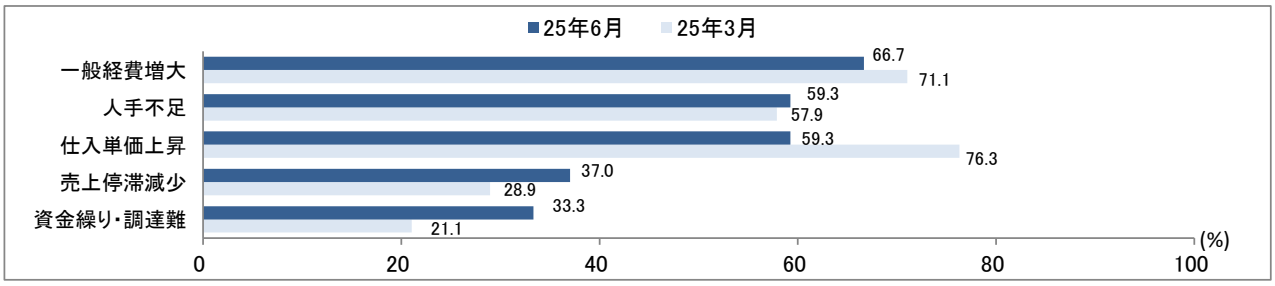
運輸業　消費マインド警戒　強まる閉塞感

売上ＤＩは32.2（前回比＋13.9ポイント）、収益ＤＩは17.9（前回比＋20.6ポイント）となりました。
前回調査時の4-6月期の見通しから、売上ＤＩは13.8ポイント、収益ＤＩは15.3ポイントそれぞれ上振れし、2025年7-9月期は、売上ＤＩが3.6ポイント下落し、収益ＤＩは3.5ポイント上昇すると予想しています。企業からは、「トラック運転手の人手不足が大きな課題」「トランプ関税による国内景気への影響が心配だ」などの声が聞かれました。
経営上の問題点は、「一般経費増大」が66.7%、「人手不足」が59.3%「仕入単価上昇」が59.3%となっています。

売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　n= 28



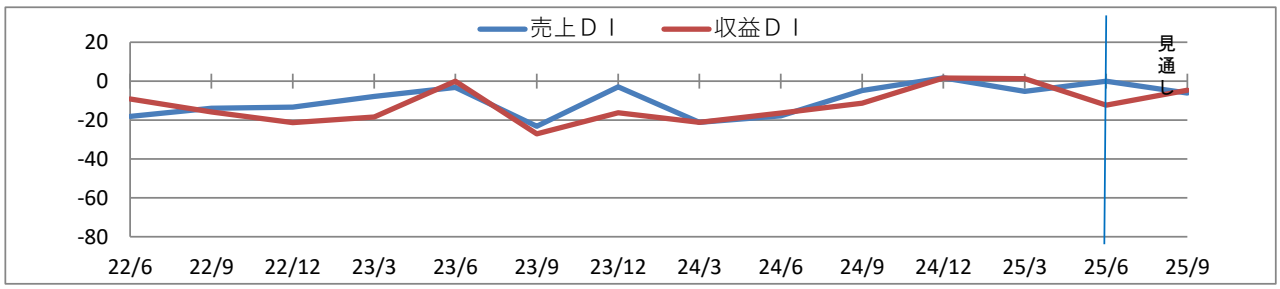
経営上の問題点



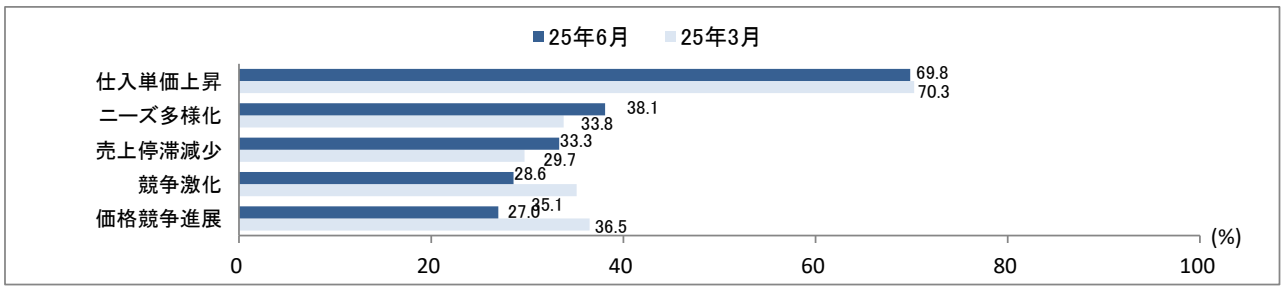
不動産業　長期化する高い物件価格

売上ＤＩは0.0（前回比＋5.2ポイント）、収益ＤＩは－12.3（前回比△13.6ポイント）と下落し、前回調査時の4-6月期の見通しから、売上ＤＩは9.1ポイント、収益ＤＩは24.0ポイントそれぞれ下振れしました。
外国人による物件購入もあって物件価格は相変わらず高止まりしており、商品物件購入は厳しい状況が続いています。
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が69.8%と最大の問題点ですが、「ニーズ多様化」や「売上停滞減少」が急伸しており、多岐に亘る問題点への対応に迫られています。

売上ＤＩ・収益ＤＩの推移　n= 65



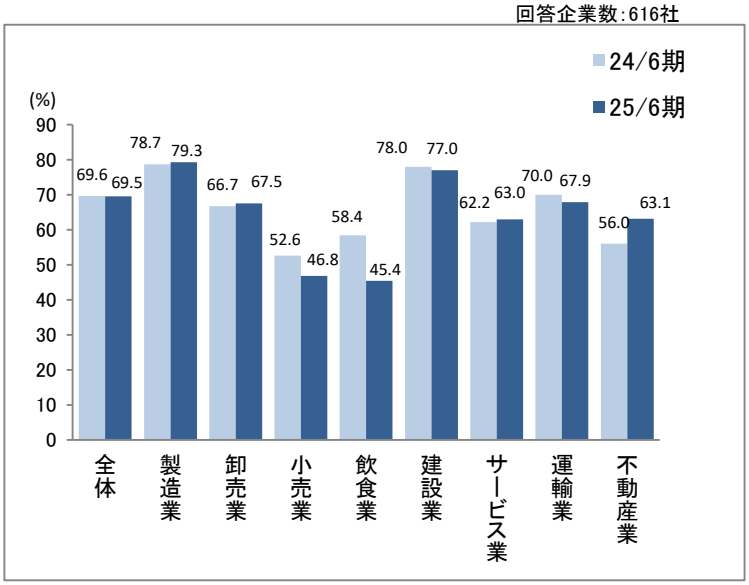
経営上の問題点



夏季賞与支給状況　支給企業割合 金額は横這い

夏季賞与（業種別）

回答企業数：616社

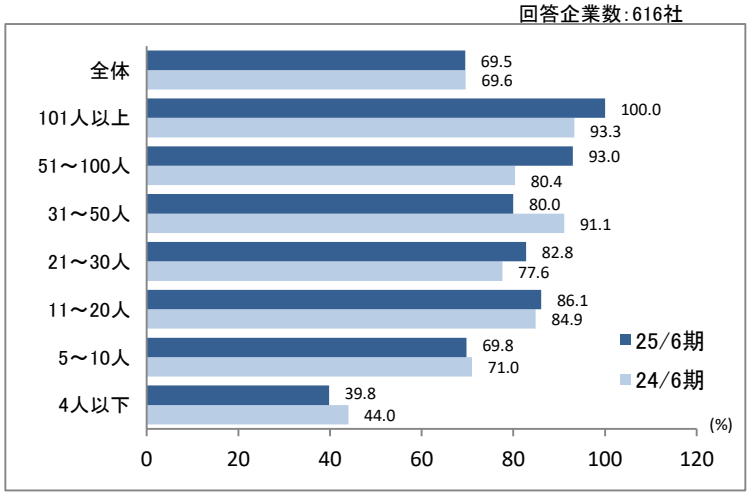


夏季賞与について、「支給する」が69.5％（昨年比△0.1ポイント）となりました。昨年から上昇したのは、製造業が79.3％、卸売業が67.5％、サービス業が63.0％、不動産業が63.1％と8業種中4業種で増加し、長期化する人手不足を背景に増加していると思われます。

賃上げの上昇など固定費の上昇は続いている中にあって、経営環境が一層厳しくなっていますが、従業員確保を目的にやむなく支給していると思われます。

夏季賞与（従業員数別）

回答企業数：616社

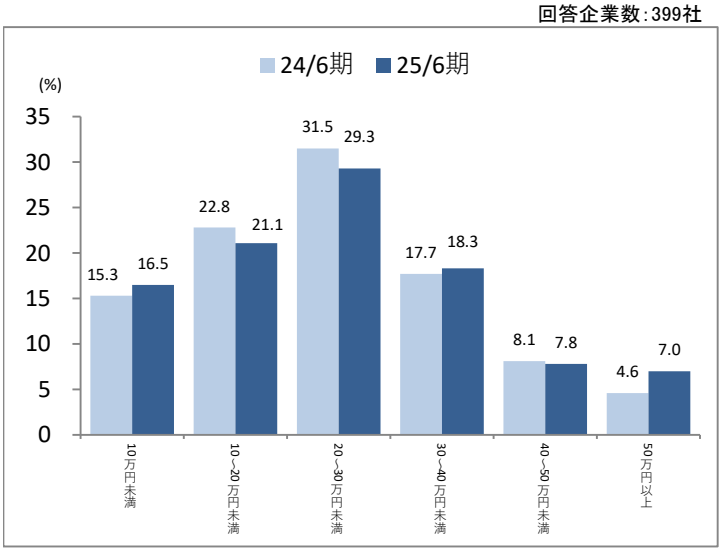


従業員数別では、「11～20人」86.1％（昨年比＋1.2ポイント）、「21～30人」82.8％（昨年比＋5.2ポイント）、「51～100人」93.0％（昨年比＋0.3ポイント」、「101人以上」が100.0％（昨年比＋6.7ポイント）が上昇し、支給率が改善しました。

「4人以下」の小規模事業所では39.8％と低く、家族経営が多いことが要因と思われます。

夏季賞与（金額別）

回答企業数：399社



金額別では、支給する企業が増加したのは、「10万円未満」が16.5％、「30～40万円未満」が18.3％、「50万円以上」が7.0％に上昇する一方、「10～20万円未満」は21.1％に、「20～30万円未満」29.3％に下落しました。

個別企業ごとに対応の違いがありますが、支給金額はほぼ横ばいで推移しています。

物価高や賃上げへの対応など収益環境は一層厳しさを増し、一時金への対応は苦しくなっています。